

事業報告書

平成29（2017）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福社会

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

【目次】

1	事業報告（所長）	2
2	地域包括支援センター	3
3	地域交流事業	4
4	生活支援体制整備事業	6
5	居宅介護支援事業	7
6	通所介護部門	8
7	通所介護給食部門	9
8	横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	10

平成29年度 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 事業報告

【法人理念】

「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」

【目的】

「私たちは地域の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう福祉保健サービス等を行います」

【基本方針】

「利用者や地域に貢献するために各部門・地域や行政等と連携します」

「互いに資質向上に努め、信頼につながるサービス体制をつくります」

私たち横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ職員は、朝礼時に上記の言葉を読み上げてから業務を始めています。

私たちの働きは、地域の皆さまの力になることができたでしょうか。

私たちの姿勢は、地域の皆さまの信頼に足りるものだったでしょうか。

この後各事業の報告をいたしますが、ケアプラザを代表する立場としての報告は以下の言葉に集約させていただきます。

地域の皆さまの優しさと温かさに支えられながら平成29年度も職務を全うさせていただきました。これに甘えず、地域の皆さまが本来持っている様々な力が発揮できるよう、これからも心を込めて関わらせていただきます。よろしく願いいたします。

所長 下山 直樹

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター	西村 明史
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域の高齢者の心身の健康維持、介護予防・保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に行なった。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 下記業務を区福祉保健センターと密接な連携を図りつつ行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1 包括的支援事業； <ol style="list-style-type: none"> ア 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るものを除く） イ 総合相談支援業務、 ウ 権利擁護業務、 エ 包括的・継続的ケアマネジメント業務 オ 在宅医療・介護連携の推進 カ 生活支援サービスの体制整備 キ 認知症高齢者の総合的支援 2 介護予防支援業務 3 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るもの）
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> 1 相談には迅速・丁寧な対応を心がけた。必要があれば訪問して相談を受けた。よりの確な支援をするために資質の向上を図った。…相談件数：年間1,436件 2 介護予防事業の開催及び認知症予防、ロコモ予防等の普及啓発 …年間 64回実施 3 権利擁護の普及啓発研修 共催で3回を含め、計9回開催、認知症の勉強会 1回開催 4 介護予防プランを作成し、要介護状態になることの予防に努めた。…年間1,314件作成 5 地域ケア会議の開催 個別会議 年間4回実施、 包括レベル会議 年間2回実施
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ol style="list-style-type: none"> 1 地域のアセスメントや事業の評価・再構築をしていくために、主に地域ケア会議を通して、資料等のデータ化・見える化に取り組み、より客観的な分析を試みるようにした。 2 多問題ケースなどの相談の増加に対応し、さらなる情報共有・対応力の強化を試みた。経済的課題、成年後見、虐待疑いなど権利擁護の対応等に適切に出来るよう研修の参加や研究活動（社会福祉学会での研究報告）、有識者や他職種からの助言を積極的に頂いた。地域ケア会議を通し地域課題の抽出、共有、解決策の検討と障がい者支援機関とのさらなる連携強化を図った。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> 1 行政や地区社協だけでなく、自治会や地域の施設、医療機関、障がい者支援機関、店舗、ボランティア等様々な方々とのネットワークを維持強化に努めた。 2 認知症対応のための徘徊SOSローカルネットワークをはじめ、あんしんネットワーク、施設連絡会等の地域のネットワークに関する関係機関との連携強化に努めた。 旭区SOSネットワーク協賛店、SOSローカルネットワーク発見依頼機関 訪問：41店舗・機関（1店舗新規）
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 生活支援体制整備部門、地域活動交流部門、横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業と会議等を通して、地域課題に関する情報の共有に努めた。地域包括支援センターと各部門と共催で地域住民向けの研修会や介護予防の企画などを行なった。
VII	残された課題・評価・その他の特記事項 今後も地域の高齢化、福祉課題の複雑化が予測される。ケアプラザ内の各事業（生活支援体制整備部門、地域活動交流部門、横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業）、自治会や地区社協、行政、医療、高齢者や障がい者支援機関等と連携し、地域支援の在り方について対応方法を協議していく必要がある。

平成29年度事業報告 部門名		報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域交流部門		溝口 成一
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 ケアプラザが地域の福祉保健の拠点として地域住民が気軽に利用する施設を目指し、今年度は生活支援コーディネーターと共催など、ハマトレ体操、社交ダンス等、新たに9種の主催事業を新設、また小中高校生の福祉体験や高齢者との交流会などを実施した。 2 地域に必要な情報を収集し、広報・掲示等で情報を発信した。 3 地域包括支援センター等と連携し、多様化する相談内容に対し適切な対応を行った。	
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 地域包括支援センター等と連携して相談内容の分析を行い、地域住民より「ケアプラザに行くことが大変」という声がありそれに応えるために、西ひかりが丘公団集会所に向きハマトレ体操を毎月1回行った。 2 地域の関連機関や行政と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。 3 相談者が安心できるようなあたたかい窓口対応を行った。 4 広報活動については月1回発行の便りをカラーに変更し、貸室予定を箇条書きからカレンダーの表に入れて見やすくした。 5 快適な施設環境を維持した。 6 地域のニーズに即した主催事業を実施できるようアンケートを作成し、情報収集を心がけた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 主催事業を月10種、延べ20回以上開催した。 2 連携・情報共有連絡会等を月1回以上の開催、または参加した。 3 来館者数月平均 2,124名 計画比106%増 4 広報誌、事業案内を月1回発行する。掲示板の「今日は何の日」（営業日毎）、部屋利用状況表（毎週）を更新する。前年度にリニューアルしたホームページを活用し、月1回以上事業等の報告を行った。	
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 窓口業務の見直し 来館者への目配り、声かけ、玄関回りの人の動きに注意し事故を防ぐ。来館した方が体調を崩した場合に、感染対策や救急対応を誘導できるようマニュアルを配置、対応法の復習を行った。 2 快適な施設環境維持 職員全員が館内外に気を配り、施設の点検・修繕・備品管理にも気を配り安心して利用していただける環境を作った。 3 各イベントや講座の企画・遂行をスムーズに行えるよう、スタッフが段取りや進行状況を共有できるようなしくみのマニュアルを活用作成した。 4 ケアプラザ内の掲示板・チラシなどの情報を、分類するなど掲示方法を工夫し、閲覧しやすくした。 5 ケアプラザを挙げての地域支援を行えるよう、他職種連携の場を通じ情報共有・提案・相談等、意見交換を積極的に行った。 6 地域住民の活動の場へ積極的に参加し、関係作りに努めた。	
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 地域の見守りネットワークの維持への支援として連絡会を定期的実施することができた。 2 地域ボランティア団体への支援や情報提供、各団体からの意見収集に努めた。 3 内外掲示板や地域へ配布している“ひかりが丘便り”を有効活用し事業チラシや、地域防犯につながる情報発信の強化を目指した。 4 災害・感染症など有事の際の役割確認と、地域との防災協力体制の強化を目指した。	
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 地域交流主催事業の立ち上げ 年度中に10種・包括支援センターとの共催事業を1種立ち上げた。また外部との情報の共有を行った。 2 ケアプラザへ来所出来ない方、引きこもりがちの方等、個別ニーズを把握した上で行う出張支援の取組みを行った。	

VII

残された課題・評価・反省・その他の特記事項

- 1 新規主催事業を立ち上げたことで新たな利用者・ボランティアの参加がありケアプラザの利用者は増えたが、比較的リピーターが多い為できるだけご利用のあまり無い方などに来館いただけるような事業展開を行っていきたい。また、地域住民とコミュニケーションをとりニーズを把握し、地域住民が利用しやすいケアプラザを目指したい。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業	飯田 竜一郎
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置を通じ、多様な主体による多様な支援の提供体制を構築し、生活支援・介護予防の充実した地域づくりに取り組んだ。 地域包括ケアシステムの構築の為、生活支援コーディネーター配置を通じ、地域住民及び多様な団体より情報収集を行い、地域課題の抽出及び、資源情報リストの更新を随時行った。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 住民主体の活動団体の内容を広報誌などへ掲載し、地域の方々に周知した。 2 介護予防・生きがい作りの為の活動団体の担い手育成及び担い手募集を行った。 3 地域住民及び地域活動団体等への聞き取り調査を通じ断続したアセスメントを行った。 4 日常生活支援総合事業の推進を図る為、住民主体の活動団体への情報提供を行った。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 生活支援体制整備事業の推進を図る為、区社協と連携し住民主体の活動団体へ年6回の研修を実施した。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 ケアプラザを挙げて地域支援を行えるよう、各種会議・連絡会・懇談会などへ参加し他職種との情報の共有や相談・意見交換を行った。 2 地域で行われる行事には積極的に参加し地域住民の方々との関係作りを行った。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 活動基盤の強化を図る為、住民主体の活動場所へ積極的に参加し地域住民の方々との関係性強化を行った。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 区社協と区内生活支援コーディネーターとが連携し3つの連絡会を立ち上げ、住民主体の活動団体への情報提供や研修体制、また広報を通じ活発な活動のサポートを行った。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 高齢化及び人口減少が非常に顕著に表れている地域の中でも、意欲的に活動されている方が多く存在しており、その方々の負担が急増しているのが現状の課題と考えている。 地域で行われている様々な活動が担い手不足及び高齢化や負担増により活動自体が縮小傾向にある。現状の活動者の負担軽減及び活発な活動支援の観点から待ったなしの担い手補充が必要と感じており、ボランティアの広報募集だけではなく様々な担い手確保の方法を地域包括・地域交流及びケアプラザ全体で協議・相談し実行に移していきたいと考えている。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業部門	江口 直美
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼を提供した。ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来ることを目指し、支援を行った。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1.互いに連携する <ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施される民生委員懇談会に出席し、情報交換を行った。 ・サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関、等からの相談には積極的に対応し連携を深めた。 ・ケアプラザ協力医とケースカンファレンス会議を実施し連携を深めた。 ・予防介護支援事業と協力し予防支援居宅サービス計画書作成した。 ・旭区からの認定調査の委託に対応し、地域の方々に資するよう務めた。 2.互いの資質を向上させ信頼に繋がる体制を作った。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営基準に基づいたサービスを実施した。 ・月に一回事業所内事例検討会を実施、一つの事例に対し多方面からの意見を得られる場を作った。 ・事業所内で連携を図り、包括・地域・通所からの情報、助言を受けられることで、緊急の際も早急に対応出来る体制を維持していった。 ・「サービス内容に関するご利用者アンケート調査」により、業務の振り返りと改善を実施した。 ・新規開設の地域の福祉・保健サービス等の情報を収集しご利用者のニーズにあったサービスを提供出来る体制を作った。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 居宅サービス計画書作成件数：年間1,020件に対し1106件 2 介護予防支援計画書作成件数：年間480件に対し627件 3 認定調査受託件数：年間：80件（区外からの委託を含む）に対し91件 4 事例検討会の実施：年間：6回に対し6回
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 家族の介護力が低いことから、本来家族が行うべき保険外の内容にケアマネが関わらざるをえない状況が多くなっていた。行政、地域が行っているインフォーマルサービスを取り入れる、家族に対しアドバイスをするなどの対応を図った。 2 問題となるケースに関しては、包括、区のケースワーカーと共に解決策を見出していった。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 地域ケア会議に参加し有権者、他職種からの助言を受け、さらなる情報共有、対応力の強化を図った。 2 地域の方々に「信頼」を提供出来るよう顔の見える関係作りを構築していった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 要支援者に対する総合事業への移行が始まった。利用者は混乱なくサービスが継続できている。 2 インフォーマルサービスを積極的に利用し、業務の向上と本人の意欲を上げて行った。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 今回の改正で医療との連携が重要とされている。独居での在宅看取りなども増えていくであろう状況の中で、医療、各サービスと密に連携を取り、在宅でその方がその方らしく生きていける体制を構築していくことが重要と考えられる。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護	竹内 葉子
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 デイサービスの支援が必要な利用者の意欲と生活機能及び生活意欲の維持・向上めざして、サービスを提供した。 2 地域福祉の担い手として責任感を持ち、多様な資源との『繋がり』を大切に『謙虚な気持ちで』ご利用者及びご家族への支援を実践した。 3 利用者・家族・ボランティアに職員が、それぞれに《目配り・気配り・心配り》を行うことによりさらに暖かくご利用者からも地域からも必要とされるデイサービスを目指した。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 笑顔で迎え、笑顔で送るデイサービス。「来てよかった」「また来たい」と笑顔で過ごしていただけるデイサービス。ご利用者や家族が安心できるデイサービス。常に安全とサービスの質の向上を意識して日々の業務に取り組んだ。 1 制度に則した運営：利用者それぞれの生活にあった、選べるサービス、また個々に必要とされるサービスを提供し誰もが安心して生活が送れるよう関係法令を遵守し、計画的な事業を行った。 2 サービスの質の向上：プログラム制のレクリエーションを導入、継続することによりデイサービス利用時の目的、目標を持ちケアマネジャーや家族にも周知徹底し、個々の生活に楽しみや目標意識を確立する。また継続して活動することにより、体力や集中力の向上に目標を取り組み、且つ技術的、能力的にも意識した行動を行った。 3 情報発信：必要に応じご家族やケアマネジャーに文章や電話などで情報の提供を行い、特に身体的及び精神的に急を要すると判断した時は、速やかに家族のみならず医療等、関係機関とも情報共有に努めた。その際は必ず発信記録を怠らない。また、急変時の連絡体制及び連絡方法も事前に確認し事業所間で共有することを徹底した。 4 地域社会及び関係各所との連携：地域包括支援センターや関係機関と連携し、特に問題ケースでは早めに対応した。その際は写真撮影などにより情報共有を的確に出来るようにした。 5 個人情報の適切な管理：個人情報の有用性に配慮し、その権利と安全を保護した。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 一日平均延38人以上のご利用者数を確保。（大規模事業所I・定員40名） 実施人数 1日平均35名だった。 2 介護サービス情報の公表の調査項目を全て実施した。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 3時間、5時間、7時間、3通りの利用時間の導入により、利用者個々の生活の中、体力や症状により利用時間の見直しを行った。 2 送迎を含め利用時間内の事故に対し、連絡、対応のマニュアルを徹底したが、事故を無くすことはできなかった。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 職員の配置において、役割の見直しと細分化をする。 2 年間を通し、6回以上の施設内研修を行った。 3 マニュアル等の見直し、常に改善箇所において再作成をする。50%達成。 4 利用者受け入れについて、スタッフの許容と受け入れが可能か判断していく。新規利用者について検討し、全て受け入れた。 5 テラスの美化、及び四季を通して自然の環境を作る。清掃など不十分だった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 曜日別レクリエーションに各担当を決め、それぞれの活動がマンネリ化しないよう、常に新たな活動メニューを取り入れ、利用者の満足度向上に結び付けた。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 人員配置は整ったが、反比例するように利用者の減少に歯止めが利かない。今後職員の適正数配置と利用者の確保、規模の確認等を検討していくことが必要になる。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護給食	竹内 葉子
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 健やかな生活を支える基本となる食事を提供するために、季節感が楽しめる新鮮な野菜を多く使い、栄養バランスの良いメニューを工夫して、普段自宅では食べられない食事提供を行った。また地場野菜を取り入れて野菜多めの昼食を提供した。 又、噛む力が衰えている方も安心して栄養が確保できることや、素材の味を生かした薄味の調理を目指した。 毎月発行の「献立表」で料理を紹介した。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 選択食やお楽しみメニューを取り入れ、ご利用者の満足度を高める献立づくりをする。 2 相談員、介護職、看護職と連携をとり、安全で美味しい食事の提供に努める。また個々の身体状態に合わせ、食材、形態など対応する。常に代替えの提供が出来るよう食材の準備を怠らない。 3 間食のメニューの多様化、また量とカロリーへの配慮を徹底する。 4 一食20種類以上の食材を摂り入れ、提供メニューのなかで重ならないようにした。 5 スタッフ全員の技術向上と介護食の知識習得に努めるためメニュー検討を毎日行った。 6 調理業務に必要な衛生管理、検査等を徹底することで食中毒や感染症の予防に努めた。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 誕生日に一品、メニューリクエスト制を継続した。利用者の楽しみの一環となった。 2 季節毎の行事食の提供。12回以上提供した。 3 週に一回以上のお楽しみメニューを導入。季節感を意識してワンメニューの時、果物の提供を意識して多く取り入れた。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 食材の廃棄をなくす。一人分の材料の食材を測った。 2 作りすぎを防ぎ、無駄の無い調理を徹底した。 3 職員一人一人が担当を決め、食材の管理に責任を持つ。在庫の管理も徹底した。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 ご利用者の帰宅時に見守りに出て親しく話す中で、献立、味付けなどについて、直接の声を伺い、調理に活かしていく。また後日同じ利用者に会話を試みるも評価につながることは少なかった。 2 配膳時は食事量、塩分、糖分の調整、食欲のない方への配慮などご利用者一人一人への心配りを行い、食札以外の嗜好など顔を見て食事の提供を実施した。代替品は小鉢に至るまで配慮を怠らなかった。 3 毎月「給食会議」を行い、美味しく食べやすいメニューや調理方法について検討する。行事や季節食について、会議を通し介護職員からも積極的に意見を求めメニューの幅を広げていく。また食札の在り方についても協議した。 4 誕生日のリクエストメニューの継続することにより、より細かい嗜好調査を行い記録した。その結果を日常の食事提供にも役立てる事が出来た。 5 食札及び個別対応表を常に見直し、特にアレルギー食の誤配、誤食が起きないように努めた。今年度誤配はなかった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 新メニューの考案に努めたが、現場実習は取り入れられなかった。 2 旬食材にこだわり、調理法など購入業者からもアドバイスを受けた。その結果食材の使い方に幅が広がった。 3 通所介護の行事等に積極的に参加しご利用者とのコミュニケーションを図る。顔と名前のわかる関係化を構築した。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 利用者が減少している。食材の使い方をどのようにしていくか、人数で使う量をしっかり把握していかなければならない。また肉や魚の調理法にもっと幅を持たせたい。新メニューの考案をしていく。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	岩並 仰
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <p>高齢化が著しい市営ひかりが丘住宅において、生活援助員(LSA:ライフ・サポート・アドバイザー)として、居住される高齢者の生活に関する相談、見守り、安否確認を行った。また、住民同士のつながりの場の提供、自助・互助の促進のためにお茶のみサロンを開催した。アウトリーチ活動として、新規入居世帯等への訪問を行い、問題の早期発見、早期解決を目指した。</p> <p>相談者実数：180名 相談延件数：373件（内 来場：56件 安否確認時：85件 その他：232件） 相談内容内訳 病気：66件、介護：35件、経済面：19件、家事：30件、子育て：2件、 家族関係：32件、制度関係：51件、防犯・被害：29件、近所関係：65件、住環境：44件 相談への対応（重複あり） 傾聴：291、情報提供：137、書類提出支援：13件、助言：113件、その他：16件、引継ぎ：96件 相談対応結果 解決：127件、不安軽減：70件、引継ぎ：66件、継続：148件、不満：2件 お茶のみサロン開設数：100回 サロン参加者実数：72名（内 男性20名 女性52名） サロン参加者延数：1622名（1回平均16.2名） 見守り事業登録世帯総数：128世帯（3月末時点での継続：122世帯） 見守り登録者の性別 男性：43名 女性：85名 転入世帯訪問 計132件 見守り事業勸奨訪問 計2630件</p>
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助：モデル事業からの活動を通じて、LSAへの信頼が蓄積し、「何かあれば相談できる」存在として入居者に浸透したことが、相談件数に表れていると考える。 2 見守り事業：登録世帯が着実に増えている。孤立死が0件だったことが何より嬉しい。 3 お茶のみサロン：問題なく運営できた。地域に定着した。 4 アウトリーチ活動：地道な業務だが、効果は大きい。今後も継続していけるかが課題。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談対応後の結果(不満)件数の目標が0件のところ2件だった 2 見守り登録世帯の総数100世帯以上を維持できた。 3 見守り登録世帯の孤立死件数0（ここでの“孤立死”の定義は、「死後4日以上経過して発見された事例」とする）。 4 お茶のみサロン参加者平均10名以上の維持ができた。 5 新規入居世帯への、6か月以内の訪問をすることができた。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入居者にいちばん近い存在として、関係機関への連絡調整、つなぎ役に徹した。そのためには、入居者に寄り添い課題を受けとめ的確に分析することが重要だと分かった。 2 お茶のみサロンでは、イベントを開催するなど、新たな参加者を呼び込むことができた。ただ、常連が固定する傾向は強まっているように思える。 3 LSAとして、安否確認の対応は経験が蓄積しているので円滑に行えた。しかし、負担感を軽減する具体的な施策があったわけではない。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特にメンタルケアについて重点的に学んだ。発達障害についてなど。 2 お茶のみサロンでは、外部講師による消費者講座を開いて啓発の場とした。他、入居者のボランティアによる音楽会イベントも開催した。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>若い障害者等の世帯の困りごとを把握した場合は、旭区のケアサポートガイドを配布するなどした。しかし既存の受け皿だけでは不足していると考えた。</p>

VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項

相談対応結果(自己評価)のうち〈不満〉2件は、いずれも精神疾患が絡むケースであった。メンタルケアについては研修を受けるなど努力しているが、対応に苦慮し不安も大きい。専門職のサポートが必要である。また、いわゆる「ご近所トラブル」で解決が難しく対応を継続しているケースが少なくない。関係機関が必ずしも対応してくれるわけではなく、LSAとしてもできることが乏しい中で、どう困難に寄り添っていくかが課題である。

お茶のみサロンでは、数値目標も掲げ、達成することもできているが、より重要なのは「何人来るかではなく〈誰が〉来るか」である。「サロンでしかつなげられない人」が来ているのかどうか。

平成29年度 自主事業報告書

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

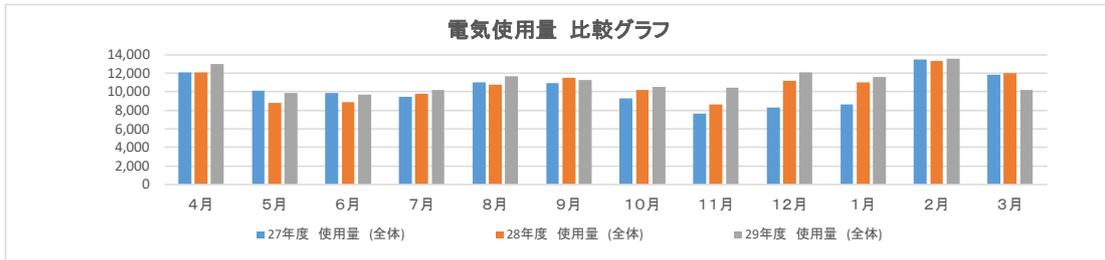
事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
合同歌声喫茶 2017	(目的) 歌好きの方々が集まって仲間作りや健康作り。また外出の機会を作る。区内の全ケアプラザを紹介。 (内容) 2010年からスタートした合同歌声喫茶。毎年キャンセル待ちがでる程の人気事業に。2012年からは東日本大震災の募金活動も開始。集まったお金は職員が被災地に届けた。	年1回 (5月31日) 463名 旭公会堂
ひかりが丘 介護者のつどい 銀俱樂部	(目的) 介護者の会、情報提供、虐待防止。場所はひかり商店街の喫茶かふかぶ。 (内容) 介護者サロンとして、包括職員とサロン形式で雑談。親睦を深め虐待防止に繋げる事を継続している。	毎月第2金曜日 11回 51名
囲碁教室	(目的) 囲碁を通して高齢者・障害者等、地域の方の場所作りを目指している。 (内容) 外出することが苦手な高年男性や精神障害の方などを中心に年齢や障害のあるなしを問わず、囲碁を通して地域の方との交流の場所とした。ボランティアは福祉囲碁協会。	第1・3木曜日 第2・4水曜日 46回 455名
古典を学ぶ会	(目的) 高齢や障害で他の方と接する機会の少ない方が、日本の古典を読むことを通して、日常生活を捉えなおす機会を持ち、話し合う場として提供する。 (内容) 講師はご住職の方による、往生要集の購読など。	毎月第4木曜日 9回 35名
にこにこ会	(目的) 精神障害の方の居場所作り。 (内容) 会員同士で年間の計画をたて、食事会や外出の機会を設けることで社会性向上や日常生活に寄与する。旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと【共に歩む市民の会】との共催。	毎月第4木曜日 11回 92名
子ども科学クラブ	(目的) 地域の小学生の3年～6年生までを対象に、様々な科学おもちゃ工作を通じて科学的興味を育てる。 (内容) 講師の科学博物館ボランティアの藤野氏に毎月違う工作を指導して頂く。地域のボランティアも2、3名協力。	毎月第3水曜日 10回 138名
ひかりの会	(目的) 脳血管障害による言語障害のための親睦サロン。 (内容) 月に一度仲間と親睦を深め、多少の言語リハビリも行うサロン活動。	毎月第4火曜日 11回 82名
癒しの音楽 研究会	(目的) 地域住民の閉じこもり防止、ストレス解消、心の安定を図る。 (内容) 癒し系の音楽(ヒーリング音楽、クラシック、オルゴール等)やリラックスできるような音楽を聴く、あるいは音楽をBGMにしてリラックスした状態で参加者がコミュニケーションを図った。	毎月第2日曜日 11回 56名
上白根地区 民生委員懇談会	(目的) 地域の民生・児童委員とケアプラザ職員の情報交換・研修等実施による連携強化。 (内容) 市営・UR団地の民生・児童委員と地域交流、包括支援センター、居宅介護事業所のメンバーで情報交換・連携強化・研修等を行っている。旭区高齢障害支援課の地区担当も参加した。	毎月第2金曜日 10回 162名
施設連絡会	(目的) 地域の介護保険施設の相談員と定期的に情報交換を行い、地域課題の抽出・対応の検討などを行う。 (内容) 地域の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、高齢者グループホームの相談員等との情報交換や地域課題の抽出・対応の検討、ボランティア支援などを行った。	第3火曜日 4回 22名 A4:I47A2:I47B18A 18:I47A1:I47

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
支えあい連絡会	<p>(目的) 地域施設連絡会、ひかりネット、SOSローカルネット、あんしんネットワークなどの活動を統括して地域の福祉につなげる。旭区と地域福祉保健計画推進についても、検討する機会。</p> <p>(内容) 地域の状況にあったテーマ・時期に会議形式で行った。</p>	5/8、8/23、8/24、10/27、1/29、3/3 6回 141名
健康吹き矢	<p>(目的) 地域の高齢者や閉じこもりの男性等の外出のきっかけづくり、また吹き矢による腹式呼吸トレーニングと腹筋・口の周りの筋力強化による健康増進。</p> <p>(内容) 呼吸法を意識しながら、ゲームを楽しんだ。</p>	第1水曜日 第3月曜日 第4土曜日 36回 242名
みんなの庭	<p>(目的) 園芸を通じた世代間交流。また、ボランティアとして参加して頂くことで、生き甲斐の一助となるような機会の提供。</p> <p>(内容) ケアプラザの庭の一部を開放し、季節を感じられる花と緑を年に2～4回植え替え、随時手入れに参加して頂く。募集は子どもから高齢者までの地域の方すべて。</p>	5/19、11/10 2回 71名
歌謡体操	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。</p> <p>(内容) カラオケ機械のライブDAMの歌謡体操を主に、歌いながら体を動かしていけるようにする。またライブDAMだけに捕らわれず楽しく続けられるようDVD(四季の歌)も取り入れ、参加者に自ら選択してメニューを組み立てていく自主性を育むきっかけとした。</p>	第1・3月曜日 24回 451名
ひかりの輪	<p>(目的) 輪投げのゲームを楽しむことで外出のきっかけ、世代間交流となることを目的とする。</p> <p>(内容) 地域の方から寄付された輪投げの道具を利用し、グループ対抗の輪投げのゲームを行う。募集は子どもから高齢者までの地域の方すべて。</p>	第1・3日曜日 22回 235名
お守り&開運グッズ工作講座	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 工作を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	6/28、7/26、8/23 3回 27名
折り紙講座	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 折り紙を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	6/29 1回 14名
ハマトレ体操	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。</p> <p>(内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。口腔体操等も取り入れる。</p>	第2月曜日 第4日曜日 21回 229名
ミニ健康・介護予防講座	<p>(目的) 自身の健康管理及び介護予防について興味を持ってもらい、健康教室や介護予防事業への参加へとつなげる。</p> <p>(内容) 昼食会やサロンなどの参加者に向けて、短い時間でポイントを伝える。適宜関連事業への案内も行う。</p>	不定期 23回 450名

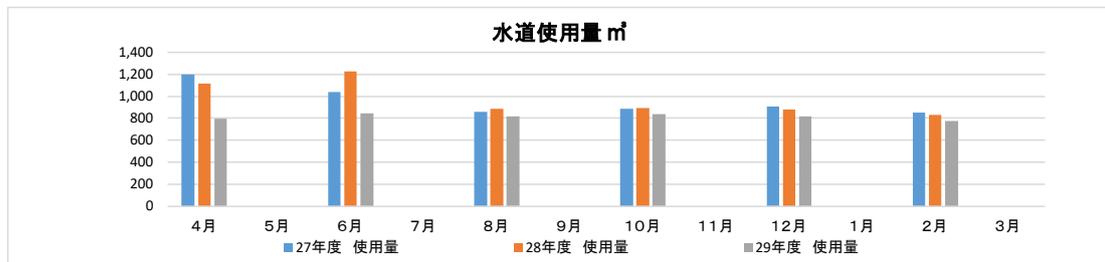
事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
健脚でGO!	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。立位では運動が難しい方を主な対象とする。</p> <p>(内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。椅子に座りながらでもできる、効果的な筋力トレーニングとストレッチを行う体操教室で、リハビリテーション体育士が指導。</p>	第2土曜日 8回 172名
旭北地区 民生委員 懇談会	<p>(目的) 団地外の旭北地区の民生委員(2名)との情報交換・課題検討等による連携強化。</p> <p>(内容) 当該地区の民生委員3名、旭区役所地区担当ケースワーカー・保健師、地域活動交流、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所ケアマネージャーのメンバーで実施。地域の現状や民生委員の活動についての悩みや課題の共有を行い、解決策や今後必要な活動等検討を行った。</p>	9月29日 1回 14名
楽しく健康! 麻雀くらぶ	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 麻雀を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	第4金曜日 9回 109名
初心者向け 社交ダンス教室	<p>(目的) 社交ダンスを定期的に行う事で自宅から出て交流の場をもつ機会を増やし、介護予防を図る。</p> <p>(内容) やさしく、楽しく心と体をリフレッシュいただき、身体に負担を掛けず楽しく健康に社交ダンスを行うことで介護予防を図る。</p>	第4金曜日 10回 214名
食品衛生講習会	<p>(目的) 地域で食事ボランティア活動に従事されている方々を中心に、食事提供における食中毒予防のポイントを理解頂く。</p> <p>(内容) 日頃から高齢者食事サービス・サロンなどで食事提供のボランティアをされている方の活動において、食事による事故を予防するための食品衛生講習会を実施。</p>	8月9日 5回 55名
夏休み 子どもクラブ	<p>(目的) 小学生対象の居場所作りとして始めたが、現在は夏休み中のお楽しみイベント(科学クラブ、クッキー教室、手芸教室など)で恒例となっている。</p> <p>(内容) 定期的で開催している子ども科学クラブに加え、クッキーなどの手作り教室を開催。</p>	7月~8月 5回 71名
第15回ひかり福祉 フェスタ	<p>(目的) 地域の福祉・障害に関わる団体の連携を強める。恒例行事を行うことでケアプラザへの関心を高め、利用をしやすいとする狙い。</p> <p>(内容) グループがバザーや催しを通じて地域との連携を深める。実行委員会(カプカプ他)と共催、包括では介護予防の啓発、地域交流では催しものにボランティアをコーディネート。</p>	11月19日 1回 450名
旭北地区 振り込め詐欺 防止講座	<p>(目的) 地域の高齢者が、振り込め詐欺などの被害に合わぬよう、事前に防止することを目的に講演会を実施する。</p> <p>(内容) 地域の昼食会にて、振り込め詐欺の被害防止講座を開催する。</p>	7/11、10/10 2回 101名
上白根地区 消費者被害・ 振り込め詐欺 防止講座	<p>(目的) 地域の高齢者が、悪質商法や振り込め詐欺などの被害に合わぬよう、事前に防止することを目的に講演会を実施する。</p> <p>(内容) 日本消費者アドバイザー・コンサルタント・相談員協会に依頼し、地域の昼食会やサロンにて、悪質商法や振り込め詐欺の被害防止講座を実施する。</p>	8/1、8/8、9/15 3回 109名

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
認知症普及啓発勉強会	(目的) 地域の高齢者等が認知症について知識を深め、家族、親族、友人、近隣住民に発症した場合の対応方法を知ってもらう。 (内容) 認知症の症状や具体的な対応方法を体験談や資料、4コマ漫画を用いて講義する。	9月 2回 45名
高校生と地域の世代間交流	(目的) 地域の公園清掃を通して世代交流を図る。 (内容) 地域の県立高校のイベントを利用して老人会の皆さんと公園清掃を行い、親睦の場とする。	9月12日 1回 32名
ボランティアポイント講習会	(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。 (内容) ケアプラザを会場に、ケアプラザ職員が講師として講習会を実施。	9/16、10/6 2回 35名
うんどう教室	(目的) 後期高齢者向け健康体操「うんどう教室」を体験して頂くことで介護予防運動の啓発を行うと同時に、地域のボランティア発掘及びケアプラザのPRを行う。	11月27日 1回 61名
上白根地区版エンディングノート活用講座(成年後見講座含む)	(目的) 地域の高齢者等が終末に向けた不安感を軽減し、より良い人生を送れるよう旭区版エンディングノート書き方講座を実施する。講座内において、成年後見制度の講座を実施し普及・啓発を行う。 (内容) 旭区版エンディングノートを用い、記述例をもとに項目ごとの意図を説明しながら、一部実際に鉛筆で下書きをしてもらい必要性を認識してもらう。成年後見制度の概要を説明し制度の活用を促す。	11/4、12/2、1/6 3回 97名
西ひかりが丘地区エンディングノート書き方講座	(目的) 地域の高齢者等が終末に向けた不安感を軽減し、より良い人生を送れるよう旭区版エンディングノート書き方講座を実施する。 (内容) 旭区版エンディングノートを用い、記述例をもとに項目ごとの意図を説明しながら、一部実際に鉛筆で下書きをしてもらい必要性を認識してもらう。	12月15日 1回 14名
大人の料理倶楽部	(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。 (内容) お料理を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。	第1、2金曜日 10回 59名
旭ふれあい区民まつり 行政・PRコーナー出展事業(旭区ケアプラザ共催)	(目的) 区内ケアプラザのPR (内容) 区内ケアプラザの周知のため、行政PRコーナーにて行政計画周知のためのPR活動の支援を行う。	10月15日 1回 282名
2017四季の森小学校4年生・視覚障がい者交流会	(目的) 学校の授業で点字の勉強をしたのを契機に視覚障がい者をもっと知りたいとの思いから、視覚障がい者と交流し、学ぶことで視覚障がい者を知り、更にケアプラザの紹介を行いケアプラザを知って頂く。 (内容) 視覚障がい者と交流しその方の思いや生活について学び、更にケアプラザの紹介を行い、ケアプラザを知って頂く。	12月4日 1回 52名
2017四季の森小学校4年生と高齢者の交流会	(目的) 小学生と高齢者が一緒に百人一首やトランプ遊びをしたりおしゃべりを楽しみ多世代交流でお互い元気になり、高齢者が家から出て子供たちとの交流を楽しんでいただき、双方にケアプラザを知って頂く。 (内容) 小学生と高齢者が一緒に百人一首やトランプ遊び、おしゃべりを楽しみ多世代交流でお互い元気になり、更にケアプラザを知って頂く。	3月5日 1回 29名

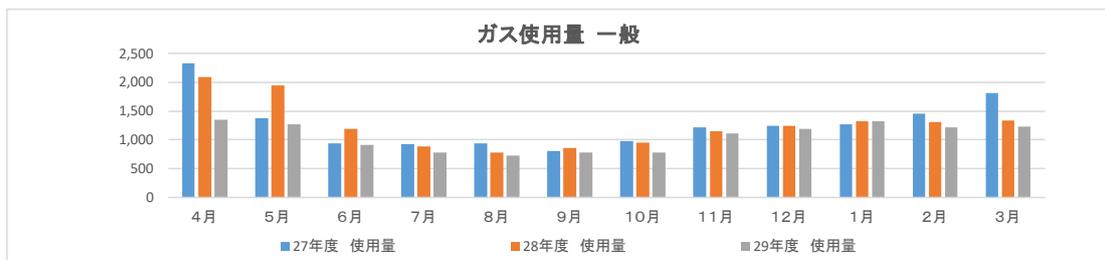
電気使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度 使用量 (全体)	12,079	10,086	9,892	9,460	11,045	10,974	9,317	7,676	8,292	8,643	13,524	11,857	122,845
28年度 使用量 (全体)	12,115	8,825	8,862	9,815	10,799	11,519	10,211	8,655	11,166	11,061	13,283	12,028	128,339
29年度 使用量 (全体)	12,973	9,860	9,699	10,218	11,649	11,300	10,498	10,455	12,063	11,604	13,607	10,221	134,147



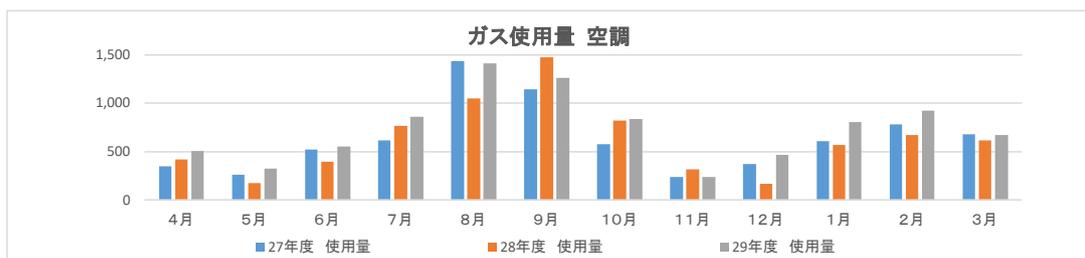
水道使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度 使用量	1,195		1,035		857		886		904		853		5,730
28年度 使用量	1,111		1,228		887		893		879		829		5,827
29年度 使用量	799		843		817		836		813		778		4,886



ガス 一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度 使用量	2,336	1,371	941	931	945	801	982	1,217	1,244	1,266	1,455	1,819	15,308
28年度 使用量	2,093	1,949	1,188	890	782	863	952	1,156	1,243	1,329	1,310	1,336	15,091
29年度 使用量	1,349	1,273	918	775	720	784	773	1,114	1,194	1,328	1,214	1,235	12,677



ガス 空調	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度 使用量	351	264	520	615	1,437	1,145	580	241	376	605	785	679	7,598
28年度 使用量	422	174	398	762	1,049	1,472	817	321	166	568	669	616	7,434
29年度 使用量	506	327	557	861	1,412	1,262	838	242	470	803	922	670	8,870



平成 29 年度 地域ケアプラザ事業実績評価 評価シート

地域の現状と課題	<p>当ケアプラザのエリアは、主に市営ひかりが丘住宅、UR西ひかりが丘団地の集合住宅地です。築49年を迎え住民同士のつながりは深いものの、市営ひかりが丘住宅には毎年約100世帯の新規入居と約80世帯の退去があり、新住民の中には自治会に参加せず地域で孤立している方も少なくない地域です。更に、要支援・要介護の高齢者、精神障がい、依存症、視覚、聴覚障がい、日本語が不自由な方、コミュニケーションが難しい方が入居され、家族不在か、いてもその家族にも支援が必要な方が多くおられます。支援に必要な精神系、障害系の医療機関が少ないため、地域包括支援センターは対応に苦慮しています。区役所生活支援課・障害担当・高齢担当との強い連携が必要です。地域支援として、通所介護では地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・訪問看護・訪問医との連携によりターミナル及び医療依存度の高い方なども受け入れ、食事、風呂など生活の基本部分を支えています。見守りネットワークのモデル事業が終わっても地域の中で見守り合い・助け合いが続いているのは、もともと居住していた住民同士の人間関係によるところが大きいと思われます。団地開設以来からの住民の高齢化に伴い自治会活動の担い手も高齢化し、民生・児童委員も常に欠員が発生している状況です。支えあい・助け合いの気持ちは深いですが、それぞれ後継者のないことが大きな問題となっています。住民については収入が少なく有償の支援を受けにくい方が多くいるのが現状で、ケアマネジャーや地域包括支援センター等の職員が家族代り(無料の働き)を務めています。法人受託の「横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業」もモデル事業から通算すると4年となり、訪問・電話による安否確認や週2回の相談室を開設してきました。自助・共助が難しい現状に対して、行政が重点的な支援を行い要介護者の孤立を防ぐねらいです。ケース会議で行政の各部門との連携を深め、個別地域ケア会議、包括レベル地域ケア会議などの形で話し合いの機会を継続して持ちたいと考えています。</p> <p>地域支援の取り組みとしては支えあい連絡会を中心に警察・自治会・民生・児童委員、医療機関・福祉施設・建物保全協会・地域に出入りする業者などを協力機関として連携を保ちつつ、安否確認や支援が必要なケースへの対応がしやすくなるよう備えています。これに関し鍵・駐車場・後見制度の問題などは「特区」としての特別な計らいを、更に横浜市に望みたいと考えています(入居時に身寄りのない方の鍵を大家さんか警察が預かる・やむをえず壊すこともあると伝える、街区に1・2台分の福祉・介護用フリー駐車スペースを設置する、安価な成年後見人を用意する、ゴミ出しの特例等)。</p>
今年度の重点目標	<p>増加する支援困難者に対して自治会・民生・児童委員・クリニック・地域の事業所等と連携して対応していくとともに、地域だけでは解決できない課題に対して行政との連携を深め、関連部署の方々と話し合いながら新たなシステムを構築する機会を持ちたいと考えています。特に日常生活の見守りを軸にした生きることそのものの支援体制の構築を検討していきたいと考えています。</p>

	今年度 実施計画・役割分担 (事業計画)	今年度 地域ケアプラザ自己評価(振り返り) (事業報告)	今年度の区評価	備考
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ				
1 全事業共通				
(1) 総合相談(高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供)	<p>前年度評価〔〇〕</p> <p>〇高齢者・障がい・子ども等幅広い分野の相談について、相談者に情報提供し、必要に応じ関係機関につなぎます。</p> <p>〇地域の特徴やニーズを把握し、相談や情報提供の手法に反映させます。</p> <p>〇窓口だけでなく、自主事業・会議等さまざまな場面で相談・情報提供をします。チラシ、広報紙、ホームページ等で周知します。</p> <p>〇職員は必要な制度施策・社会資源等の情報把握をして適切な支援につなげられるよう対応します。</p> <p>〇相談事例に対しカンファレンスなどを行い多角的に課題対応します。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>〇高齢・障がい、子どもに限らず、精神、DV等あらゆる分野での相談に応じ、必要な情報提供をし、適切な機関につなぎました。</p> <p>〇地域の特徴やニーズに応じた相談対応を行いました。</p> <p>〇窓口や自主事業、会議はもとより、街中でも声を掛け合い地域住民の相談に応じています。</p> <p>〇必要な制度施策・社会資源等の情報をもとに適切に支援しました。</p> <p>〇地域住民の生活上のちょっとした相談に対して、きめ細かく対応しました。</p> <p>〇地域におけるパソコンなどの情報収集ツールの普及率が極めて低く、食事会、民生委員懇談会、窓口、掲示板、サロン等での情報提供・周知に努めました。</p> <p>〇各部門内でのカンファレンスはもとより、協力医を交えてのカンファレンスや行政、民生委員などを交えて事例検討を行いました。LSA事業と、随時情報交換し、定期的カンファレンスを行い、連携しながら、地域住民の相談・支援に応じました。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
(2) 各事業の連携	<p>前年度評価〔〇〕</p> <p>〇地域包括支援センターの3職種の専門性、地域活動交流コーディネーターの地域とつなぐ力、地域の生活者の視点、生活支援コーディネーターの地域を活性化させる力を取り入れた支援をします。</p> <p>〇地域包括支援センターが把握した課題(ひとり暮らし高齢者の支援等)をコーディネーターも含めた地域支援関係者等に伝え、地域でできる支援体制や啓発事業などへとつなげます。</p> <p>〇地域包括支援センター、地域活動交流部門、生活支援体制整備部門で連携し、個別の課題に対応し、</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>〇地域包括支援センターの3職種の専門性、地域活動交流コーディネーターの地域とつなぐ力、地域の生活者の視点、生活支援コーディネーターの地域を活性化させる力を取り入れながら支援、事業等を実施しました。</p> <p>〇地域包括支援センター等で把握した課題(ひとり暮らし高齢者の支援等)をコーディネーター、民生委員や地域支援関係者等と共有し、区の高齢支援、障害担当等と連携し、地域でできる支援体制や啓発事業等へ展開させています。</p> <p>〇地域包括支援センター、地域活動交流部門、生活支援体制整備部門で連携し、個別の課題に対応し、ケアプラザ内で共有しています。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

	<p>ケアプラザ内で共有します。</p> <p>○地域の特徴に合わせた取組（新規・拡充、自主事業）をします。</p>	<p>○地域の特徴に合わせた取組（さまざまな関係機関との連携、介護予防、認知症予防や啓発）に取り組みました。</p>		
(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○所長を含む常勤職員の適切な配置を行います（※欠員が発生しないように）。</p> <p>○職員の資質向上、人材育成を目的とした研修を実施するとともに、外部研修や実習参加を促し、研修報告の提出、伝達研修等を行います。</p> <p>○日々の活動から得た知見を元に、法人内研究発表会や社会福祉学会、看護学会等の研究発表会への参加を促します。</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p> <p>○常勤職員の欠員はなく、適切な配置で運営することができました。</p> <p>○内部研修、及び介部研修に積極的に参加いたしました。外部研修受講後は部門内で伝達研修を行いました。</p> <p>○今年度、地域包括支援センターにおいて、昨年度の日本社会福祉弘済会の助成による権利擁護関連の研究成果を報告書としてまとめ、関係機関に配布しました。またその内容について、日本社会福祉学会秋季大会において研究成果を発表しました。</p>	今年度評価〔○〕	
(4) 地域福祉保健のネットワークの構築	<p>前年度評価〔◎〕</p> <p>○地域の関連団体や関係機関とのネットワークを強化するため、情報交換や定期的な会議をもちます。</p> <p>○民児協、地区社協、連合町内会、教育関係機関、区福祉保健センター、区社会福祉協議会その他福祉保健団体で、地域課題の情報共有とともに地域福祉保健計画を推進する取り組みの支援をします。</p> <p>○子育て支援拠点（しゃべり場、子育て相談）、地域生活支援拠点ほっとぽっと（にこにこ会）、NPO法人カプカプ（地域活動支援センター障害者作業所型カプカプ）等との連携を維持します。</p> <p>○支えあいネットワークの特徴的な取組を継続します。</p> <p>○SOSローカルネットワークなどエリア内での他機関と連携した見守りのネットワークを維持・強化していきます。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○支えあい連絡会は定期的に開催（年3回予定：計2回実施）できています。今年度は地区別計画A～Dについて2つのグループに分けて討議を行いました。</p> <p>○子育て支援拠点・ほっとぽっと・地域作業所の事業が円滑に行われるよう、ケアプラザの環境整備の取組を続け、活動や連携の維持ができています。</p> <p>○今年度第15回となる“ひかり福祉フェスタ”を行い、連携の継続性を確保しています。今年度も5回目となる健康チェックコーナーを開催、近隣の高齢福祉関係施設から6施設、職員11名が運営に協力、大勢の地域の方が健康増進を目的とした企画に参加しています（健康講話28名、健康体操55名、骨強度・ストレスチェック測定84名参加）。</p> <p>また、福祉フェスタの開催前イベントに地域の高校生（着ぐるみで来場者のお出迎え）や和太鼓演奏のボランティアをコーディネートすることが出来ました。</p> <p>○SOS ネットワーク協賛店など協力機関を訪問、徘徊高齢者等の発見や保護について協力を求め了解を得ました。（平成29年度12月末現在28店舗・機関訪問）</p>	今年度評価〔○〕	
(5) 区行政との協働	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○地域ケアプラザの役割を理解し、区と協働して取り組みます。</p> <p>(1) 地域福祉保健計画</p> <p>(2) 運営方針</p> <p>(3) 区事業等</p> <p>(4) 区包括的・継続的ケアマネジメント支援計画</p> <p>(5) 障害者など社会的弱者への支援</p> <p>○支援チーム会議への参加</p> <p>○運営協議会の開催</p> <p>○自主事業やサロンの開催</p> <p>○高齢・障害支援課、生活支援課との連絡会を行います。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○地域福祉保健計画事務局に所長が参加し、研修及びリーダー連絡会等の運営に関わりました。地域活動交流・生活支援コーディネーターは研修に参加し計画の推進を図りました。また旭区民まつりにおいて地域福祉保健計画のPRを行いました。</p> <p>○大規模団地再生（市営ひかりが丘住宅・西ひかりが丘団地）に向けた具体的な方策について、11月に行われた上白根地区支援チーム会議にて検討しました。</p> <p>○運営協議会の開催（2回開催済/3回開催予定）</p> <p>○支えあい連絡会の開催（2回開催済/3回開催予定）</p> <p>○自主事業の開催（新規事業9種開催）</p> <p>○旭区精神保健福祉セミナー実行委員会への地域交流コーディネーターの参加を通し、地域における精神障害の理解を図り偏見や差別をなくすための支援を行いました。</p> <p>○高齢・障害支援課、生活支援課との連絡会を実施しました。</p> <p>○横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業（法人が受託）の推進にあたり、ケアプラザ内における連絡会を開催し各部門との連携を深めました。</p>	今年度評価〔○〕	
2 地域活動交流事業				
(1) 自主企画事業	<p>前年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p> <p>○失語症の方の為のサロン、精神障害者のサロンの実施を継続できています。</p>	今年度評価〔◎〕	
			今年度、地域住民のニーズも踏まえ、「社交ダンス」や「健康体操」な	

<p>○自主事業を通じ、参加者の実情に合わせて福祉保健活動の開発・実施や新たな地域福祉のための取組をします。</p> <p>○高齢者だけでなく、こども・障がい分野の事業を実施し、福祉活動への働きかけを行います。</p> <p>○地域の集会所などを利用して講演会、サロン、体力向上プログラム、出前講座などを開催します。</p> <p>○他団体の共催なども視野に入れ、自主事業を充実させていきます。</p>	<p>○歌謡体操については後方支援を継続中。園芸と輪投げのサークルを通して多世代交流を目指しています。</p> <p>○子ども科学クラブ（小学生3～6年生対象）及び夏休み子どもクラブ（小学生1～6年生対象）の実施を継続できています。</p> <p>○7月より初心者向け社交ダンス教室を開催（月1回）しました。社交ダンスを定期的に行うことで自宅から出て交流の場を持つ機会を増やし、介護予防を図る目的で毎回20名ほどの参加があります。</p> <p>○8月に地域で食事ボランティアをされている方々をメインに食品衛生講習会を催行しました。</p> <p>○9月に地域の県立高校及び老人会との共催で公園清掃を行い世代間交流を図りました（30名参加）。</p> <p>○11月の第15回ひかり福祉フェスタの開催を通して地域の福祉・障害に関わる団体の連携を強める働きかけを行い、今年は毎年夏休み子どもクラブで絵のボランティアをしていただいている方を招きました。子どもから高齢者まで幅広い利用者が絵描きを楽しむために来館されケアプラザの利用を増やすことができました。（フェスタ参加者420名）。</p> <p>○5月・11月のみんなの庭（園芸）では小学生と地域の高齢者の方々が参加し多世代交流を行いました。</p> <p>○11、12月に高齢者の昼食会で小学生に合唱をしていただき、小学生と高齢者との交流の場を持ちました。</p> <p>○12月に小学生に福祉体験授業（視覚障がい者との交流）を実施しました。点字の勉強や視覚障がい者の生活などについて学ぶことを契機として今後も福祉活動に興味を持てるよう働きかけました。活動を継続するために学校関係者の方々と意見交換をしていき、今後も小学生と高齢者の交流の場を多く持つようにアプローチします。</p> <p>○新規自主事業の開催（共催含め計9種）等を通して来館者数が増加（昨年度に比べ月平均357.5人増加）しています。</p>	<p>ど多くの自主企画事業を新たに開催したことで、ケアプラザ利用者が大幅に増加し、交流の輪が広がっています。</p> <p>また、小中高生のケアプラザ利用を増やしたいというねらいのもと、多世代交流を意識して事業を組み立てたり、小学生への福祉体験授業を実施したりするなど、小中高生にとってケアプラザが身近に感じられるよう、工夫しながら取り組んでいます。</p>
<p>(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○福祉保健活動団体や地域団体に気持ちよく利用していただくために窓口での気軽なコミュニケーションに努め、相談や要望などが言いやすい環境を整えます。</p> <p>○毎週最新の空き室情報の掲示・ホームページの更新をします。メール、電話でのお問い合わせも気持ちよく応じます。</p> <p>○各登録団体が利用しやすくなるよう、申込み受付の案内・掃除道具や調理器具の見直しを行います。</p>	<p>○特にサブコーディネーターの就業期間が長いこと各団体と顔なじみの関係が構築できており、窓口での気軽なコミュニケーションや相談・要望が言いやすい環境を整えています。</p> <p>○利用率向上のため空き室情報を、掲示板・ホームページでインフォメーションしたり、利用時の報告書に申し込み受付開始の日時の案内を添付し、申し込みしやすいよう工夫しています。</p> <p>○多目的ホールに掃除道具を用意し、退室前の掃除実施が実現できています。調理器具については皿の欠け等による数量減少の状況が発生してきていますので適宜補充を行います。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>
<p>(3) ボランティアの育成及びコーディネート</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○ボランティア育成のための取組を継続します。</p> <p>○継続してボランティア登録及びコーディネートをを行います。</p> <p>○区社協ボランティアセンターとの連携を取ります。</p> <p>○交流会を開きボランティア同士のネットワーク化を図ります。</p> <p>○名簿の整備を継続します。</p>	<p>○新たな担い手を育成するためシニアボランティアポイント講習会（計2回実施）を生活支援コーディネーターと共催で行いました。講習会のなかで区社協ボランティアセンター等関係機関の説明を行いました。</p> <p>○ボランティア交流会を3月に開催予定です。</p> <p>○地域の学校に対してはイベント（福祉フェスタ・地域貢献デー）を通しボランティア活動の啓発や実施を行いました。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>
<p>(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>
<p>前年度評価〔○〕</p>	<p>○窓口では地域で活動している方々との情報交換を行い、地域状況の把握を心掛けています。適宜情報提供を行い、住民が希望する事業の参加へと</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>

	<p>○地域における福祉保健活動団体や人材等の社会資源（地区社協・連合町内会・地区民児協・地域のサロンや昼食会等）を把握し情報提供します。</p> <p>○区、区社協からの情報提供を受けて積極的に整理・活用します。</p> <p>○会議・利用団体等との情報交換から把握したニーズの取りまとめをします。</p> <p>○会場利用団体の活動を紹介し交流会を開催します。</p> <p>○掲示板のニュースなどを毎日更新、貸室情報を毎週更新、情報紙、事業紹介を毎月更新、ホームページの更新及びその他自主事業の案内など随時行います。</p>	<p>繋げています。</p> <p>○西ひかりが丘団地からひかりが丘地域ケアプラザまで来ることが困難な方が多くいる状況を考慮して西ひかりが丘団地内の自治会館にて保健活動推進員主催でハマトレ体操が月/1回（9月より）開催されサポートを行いました。</p> <p>○広報紙やチラシを定期的に発行、地域の関係機関へ配布し、情報提供・顔の見える関係を維持しています。特に広報紙は9月末配布分より従来の白黒からカラーへと紙面を変更し、約100部発行部数が増加しました。また広く外部へ向けホームページに広報誌や空き室情報を掲載する等、毎月更新しています。</p> <p>○ホームページをウェブアクセシビリティ対応にし、高齢者や障がい者などに配慮したホームページに変更しました。</p>		
--	---	--	--	--

3 生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター・協議体の設置等を通じた生活支援・介護予防の充実）

	<p>(1) 事業実施体制</p> <p>前年度評価 []</p> <p>○生活支援体制整備事業に向けて、各地域の現在あるニーズに対し、地域住民の持てる力を最大限発揮できるように支援を行い、信頼関係を構築する事で圏域での課題に支援に着目し、支え合い協力し合える体制づくりを行います。</p> <p>○個別課題への取組状況をケアプラザ内で共有し、地域支援につなげるために地域包括支援センター、地域活動交流部門等と連携します。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○地域住民が持てる力を最大限発揮するためのツールとして介護予防体操を自主事業として実施しました「ハマトレ体操（計15回実施）」もともと別事業の参加者だった方（2名）を体操指導員として育成しました。また地域住民の介護予防に対する啓発として「うんどう教室（計1回実施）」を実施しました。</p> <p>○毎月の定例会議で地域包括支援センターが取組む個別支援の状況を確認し、必要な地域支援を検討しました。様々な活動を行うための支援者が不足している現状を鑑みて、地域活動交流部門と共催で「お守り&開運グッズ工作講座（計3回実施）」「折り紙講座（計1回実施）」「楽しく健康！麻雀クラブ（計6回実施）」「シニアボランティアポイント講習会（計2回実施）」「大人の料理倶楽部（計6回実施）」実施し、新たな担い手の発掘に努めました。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
	<p>(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）</p> <p>前年度評価 []</p> <p>○今まで収集した情報と共に、アンケート調査や聞き取り等を更に進め、生活支援ニーズの状況や資源収集を行います。</p> <p>○関連機関の会議等で社会資源の情報を共有し、生活支援ニーズの状況やそれに対する資源の状況の情報更新を行います。</p> <p>○上記ニーズの情報把握・整理を行い、他職種や他機関連携により更なる情報収集と共に情報共有を行います。</p> <p>○ニーズ把握に伴い地域毎の課題分析を可視化し、地域支援への取り組みに繋がります。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○現在必要とされている生活支援ニーズを把握し今後必要な社会資源の開発に繋げるために買物支援に関するアンケートを自治会町内会（単一）を対象に実施しました。</p> <p>○社会資源の状況については随時確認を行い、旭区元気づくりマップ及び地域活動・サービスデータベースの更新を行いました。</p> <p>○自治会町内会及び関連機関については頻りに情報収集を行い、ケアプラザ内においては毎月の定例会議で情報共有を行いました。</p> <p>○アンケート結果をグラフ化し、今後の地域支援の根拠となるニーズの把握に努めました。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
	<p>(3) 連携・協議の場</p> <p>前年度評価 []</p> <p>○アンケート調査時やニーズ把握に対し、他職種連携による検討を行います。</p> <p>○課題に相違のある各自治会町内会毎にニーズ抽出を行い、課題把握を行います。地区特性に添った働きかけを行い、必要に応じた協議の場を設けます。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○毎月の定例会議で地域包括支援センターが取組む個別支援の状況を確認し、必要な地域支援を検討しました。具体的な活動の立ち上げには至りませんが、生きることそのものの支援が必要であることを確認し、見守りを軸とした活動を計画しています。</p> <p>○自治会町内会毎に異なる働きかけを行いました（サロン活動等の広報及び助言、自治会内ニーズを把握するための「座談会」実施に向けてのサポートなど）。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
	<p>(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組</p> <p>前年度評価 []</p> <p>○生活支援に向けた取組として第1層生活支援コーディネーターや他職種と連携し、対象機関や人々への働きかけや資源開発に取り組みます。</p> <p>○支え合い連絡会を通じた支援チームとの取組</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○生活支援コーディネーター連絡会や各種研修等の機会を通して地域支援の方法を確認しながら、関係する方々への働きかけを行いました。</p> <p>○上白根地区別計画目標D「助け合いの仕組みづくり」は当地区のみならず広域の地域課題であることから、「ご近所支えあいマップ」の提案を行い、日</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

<p>みにより、地域福祉保健計画にある課題に対応します。</p>	<p>常の見守り活動の重要性について働きかけを行いました。</p>		
<p>4 地域包括支援センター運営事業</p>			
<p>(1) 総合相談支援業務</p>			
<p>① 地域におけるネットワークの構築</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p>	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○地域包括ケアシステム構築のため、これまでに培った地域の介護サービス事業者・医療機関・福祉関係機関、自治会、民生委員、行政機関等とのネットワークを地域活動交流コーディネーターや生活支援コーディネーターとも協働し、維持強化していきます。</p> <p>○関係者一同の迅速な対応と緊密な連携が可能となるよう、地域に共通する課題を共有できるよう努めます。</p>	<p>地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を通し、介護サービス事業者・医療機関・福祉関係機関、自治会、民生委員、行政機関等とのネットワークをより強化できました。特に障害関係の機関との関係が強化できました。</p> <p>地域ケア会議の成果として、地域に共通する課題を明確に共有でき、緊密な連携が可能となっています。</p>	<p>基幹相談支援センターや後見的支援室絆、生活困窮者支援担当等と連携が取れており、個別地域ケア会議やカンファレンスに出席してもらうことで高齢者＋障害者のケースに対しチームでアプローチすることができています。また、民生委員との連絡会を毎月開催しており、個別事例の話し合いを通して地域ケア会議の課題設定にも繋げることができています。</p>	
<p>② 実態把握</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○民生委員・児童委員、自治会、老人会、各種事業参加者等からこまめに情報を集め、実態を把握し地域アセスメントを実施します。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等を把握します。</p>	<p>○民生委員・児童委員、自治会、老人会、各種事業参加者等からの情報収集に努め、実態把握を行い地域アセスメントを実施しました。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等の把握に努めました。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>③ 総合相談支援</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○地域アセスメントを行い、実態を把握しながら支援を行います。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等を把握します。</p> <p>○年間相談件数は、訪問相談 約 300 件、来所・電話相談 約 1,500 件を見込んでいます。</p> <p>○高齢者・障がい者ほかに関する相談を受け、相談内容を的確に把握します。</p> <p>○相談内容に応じて適切な情報を提供し関係機関や制度、事業等につなぎます。</p>	<p>○地域ケア会議等を通し、地域アセスメントを行ない、実態把握をしながら支援を行いました。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等の把握に努めました。</p> <p>○年間相談件数は、12 月末時点で、訪問相談 183 件、来所・電話相談 776 件、計 959 件です。支援困難化する事例が増えています。</p> <p>○高齢者・障がい者ほかに関する相談を受け、相談内容を的確に把握するよう努め、適切に情報提供し、緊密な連携の上で関係機関や制度、事業などにつないでいます。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(2) 権利擁護業務</p>			
<p>① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	
<p>前年度評価〔 〕</p> <p>○成年後見制度をはじめ、権利擁護事業や消費者保護など関連する法制度を理解し、区、区社協、関係団体等と連携し支援を行います。</p> <p>○成年後見制度等の普及啓発に取り組みます。</p> <p>○成年後見制度等の利用も含め、新たな権利擁護の在り方を研究し、研究報告書の関係機関への配布や、学会等の発表を検討し、より良い支援方法の普及に努めます。</p> <p>○親族申立支援にあたり手続きなどに関して適切にアドバイスをします。</p> <p>○地域の昼食会、民生委員懇談会等で地域の方々へ、旭安全安心かわら版、見守り新鮮情報等の情報提供をし、被害を予防するよう働きかけ、個別の消費者被害の解決支援も行います。</p> <p>○振り込め詐欺や消費者被害等を防止すべく広報活動等の取り組みを行います。</p>	<p>○成年後見制度をはじめ、権利擁護事業や消費者保護など関連する法制度を理解し、区、区社協、関係団体等と連携し支援を行っています。</p> <p>○エンディングノートの書き方講座を通し、成年後見制度等の普及啓発に取り組みました（4 包括共催で講座を開催。1 回目 39 名、2 回目 33 名参加）。</p> <p>○担当エリア内の UR 住民を対象にエンディングノート書き方講座を実施しました（14 名参加）。</p> <p>○成年後見制度等の利用も含め、新たな権利擁護の在り方を研究し、その研究報告書を関係機関へ配布し権利擁護の課題の共有に努めました。また、日本社会福祉学会で研究発表を行い、より良い支援方法の普及に努めました。</p> <p>○親族申立支援にあたり手続きなどに関して適切にアドバイスをしました。</p> <p>○地域の昼食会、民生委員懇談会等で地域の方々へ、旭安全安心かわら版、見守り新鮮情報等の情報提供をし、被害を予防するよう働きかけを行ないました。また、個別の消費者被害の解決支援も行いました。</p> <p>○振り込め詐欺や消費者被害等を防止すべく講演</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	

	会を開催しました（5回、計218名参加）。		
② 高齢者虐待への対応	今年度評価〔○〕	今年度評価〔○〕	
前年度評価〔○〕	○虐待事例に対し、区と情報や支援の方向性を共有し、区やケアマネジャーとの役割分担に基づき対応し、適切な支援を行いました。	横浜市基準を満たしています。	
○虐待事例に対し、区と情報や支援の方向性を共有し、区との役割分担に基づき対応し、適切な支援を行います。 ○大学などの研究機関と連携し、情報交換しながら、高齢者虐待に対するより効果的なアプローチ方法の実践に努めます。 ○介護者支援に積極的に取り組みます。分離後の本人や家族に定期訪問するなど継続的にフォローします。介護者のつどいを概ね毎月開催し、介護者が孤立しないよう参加を促し、ストレスケアと虐待防止に取り組みます。	○大学の研究機関と連携し、情報交換しながら、高齢者虐待に対するより効果的なアプローチ方法の実践に努めました。また大学の虐待支援方法に関する研究について、実際に研究様式を用いてカンファレンスを実施し、その結果について電話アンケートに協力しました。 ○介護者支援に積極的に取り組みました。分離した事例はありませんでした。介護者のつどいを概ね毎月開催し、介護者が孤立しないよう参加を促し、ストレスケアと虐待防止に取り組みました（介護者のつどいは平成29年12月末現在8回開催39名参加）。		
③ 認知症	今年度評価〔○〕	今年度評価〔○〕	
前年度評価〔○〕	○認知症の正しい理解の促進のため、普及啓発等の取り組みをしました。部屋利用団体に対し、必要に応じて認知症講座、地域向けの講座等を開催しました。認知症講座1回 26名参加。	横浜市基準を満たしています。	
○認知症の正しい理解の促進のため、普及啓発等の取り組みをします。部屋利用団体に対し、必要に応じて認知症講座、地域向けの講座等を開催します。 ○アルツハイマーデーに認知症について正しい理解を求める普及啓発に努めます。 ○SOSローカルネットワーク（徘徊高齢者検索ネットワーク）の活用で認知症の人と家族が安心して暮らせるように努め、協力機関、店舗との連携を維持し協力機関・店舗を増やしていきます。	○アルツハイマーデーに認知症について正しい理解を求める普及啓発に努めました。9月中は「アルツハイマーデー普及啓発月間」として、来館者に対し、認知症に関する資料の配布を実施しました。製薬会社提供のパンフレット等150部を配布しました。 ○SOSローカルネットワーク（徘徊高齢者検索ネットワーク）の活用で認知症の人と家族が安心して暮らせるように努め、協力機関、店舗との連携を維持するため訪問しました。（平成29年度12月末現在28店舗・機関訪問）		
(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務			
① 地域住民、関係機関等との連携推進支援	今年度評価〔○〕	今年度評価〔○〕	
前年度評価〔○〕	○民生委員との連絡会をほぼ毎月実施しました。地域特性に合わせエリア別（団地・戸建）に行い、地域課題の把握とネットワークの維持に努めました。	横浜市基準を満たしています。	
○地域の民生委員やボランティア団体等とケアマネジャーのネットワーク・支援体制の構築ができるよう、定期的に連絡会を実施します。 ○地域住民が必要とする情報を提供できるよう生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービス等の情報収集・整理を行い、把握しやすい形態の資料作成に努めます。 ○『あんしんネットワーク』を継続できるよう、地域住民との見守り体制の維持を図ります。また地域の特色を関係事業者に伝え、ネットワークの維持強化と新たな協力機関の開発に努めます。 ○地域ケア会議について、地域特性に合わせ柔軟に運営して行きます。旭区版パンフレット等わかりやすい資料での周知を図ります。各会合が有機的に連携するよう機能を意識して活用します。 ○『あんしんネットワーク』での見守りについては生活援助員とも協力し、ささえあい連絡会等での場の提供・広報・情報提供等に関わります。安否確認に対する迅速な対応を実施します。また、関係各機関の協力が得られるようPRを実施します。	○民生委員から寄せられる地域課題や、制度についての疑問等については、地域ケア会議での課題として取り上げたり、制度についての説明等を随時実施しました。 ○インフォーマルサービスの担い手である地区社協会長との情報交換を適時実施し、サービスを必要とする利用者に随時情報提供を致しました。 ○『あんしんネットワーク』による安否確認の問い合わせ（4月～12月 問い合わせ28件、死後発見10件）には迅速に対応し、見守り体制の維持に努めました。 ○民生委員・自治会など地域住民と、市営住宅に関してはLSA（生活援助員）とも随時協力し、きめ細かな見守りが可能となるよう努めました。 ○地域特性に合わせた地域ケア会議を開催致しました。会合ごとに地域課題の抽出を意識し、また会議開催に際して地域課題がスティグマや排除に繋がらないよう配慮しました。 ○『あんしんネットワーク』について関係機関の協力が得られるよう、適時PRを実施しました。		
② 医療・介護の連携推進支援	今年度評価〔○〕	今年度評価〔○〕	
前年度評価〔○〕	○上白根・今宿西と3包括合同で実施するケアマネジャーとの研修で、内科医(生活習慣病)、精神科医(老年期の精神障害)の講義を2回実施し医療	横浜市基準を満たしています。	

<p>○ケアマネジャーと地域の医療機関等との「連携できる関係作り」の為に勉強会等を実施します。</p> <p>○エリア内の医療機関（在宅療養支援診療所、医療ソーシャルワーカー、薬局等）を訪問し、顔の見える関係作りに努めます。また地域ケア会議についての周知も行います。</p> <p>○地域の「医療・介護の社会資源」マップを随時更新し、ケアマネジャーや介護サービス事業所等関係機関への周知に活用します。</p> <p>○区域で作成した医療連携ツール『もの忘れ相談シート』や横浜市医療局作成の「入院・退院サポートマップ」「入院時・退院時情報共有シート」を活用し、連携を図れるよう働きかけます。</p> <p>○昨年度実施した包括レベル地域ケア会議についての報告会を上白根・今宿西と3地域包括支援センター合同で実施し、訪問看護事業所にも参加を依頼します。また「介護サービス事業所連絡会」には地域の薬局薬剤師にも参加を依頼します。</p>	<p>連携の一助としました。身近な区内の診療所・精神科病院の医師に講師を依頼し、利用者の受診等で継続した関りが持てるようにしました。</p> <p>○エリア内の在宅療養支援診療所とは訪問や適時のメール等で情報共有を行い、ネットワークの維持に努めました。ケアマネジャーには在宅での状況を医師に伝える必要性を伝え、具体的な連携方法についても助言をしました。</p> <p>○横浜市リハビリテーション事業団の在宅リハビリを積極的に利用するよう、ケアマネジャーに情報提供し勧奨しました。難病に関わらず要支援者でリハビリ未実施事例でも利用することで、今後の見通しについての評価や、身体的自立を維持できる予防プランへの助言を貰う意義を伝えました。</p> <p>○新任ケアマネ研修では医療局作成の「入院・退院サポートマップ」「入院時・退院時情報共有シート」を周知し活用を促しました。区内で作成した「もの忘れ相談シート」についても同様に普及に努め医療機関との連携に資するように致しました。</p> <p>○「医療・介護の社会資源」マップを更新し、ケアマネジャーへの情報提供を致しました。</p> <p>○介護サービス事業者連絡会には、訪問看護事業所、旭区在宅歯科医療連携室、旭区在宅医療相談室、地域の薬局など医療関係者にも参加を促し、連携推進の一助となるよう努めました。</p>		
<p>③ ケアマネジャー支援</p>	<p>今年度評価〔 〇 〕</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p>	
<p>前年度評価〔〇〕</p> <p>○ケアマネジャーへの支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談への支援を随時実施し関係機関とも協働します。 ・ケアマネジメント能力向上に資するよう、事例検討や研修会を開催します。 ・新人・就労予定ケアマネジャーに対する研修等の実施を行います。 ・サービス担当者会議の開催支援及びスーパーバイズを随時行います。 ・支援困難事例、緊急対応時等の支援を随時行います。 ・区ケアマネジャー連絡会への支援を実施します。 ・ケアマネジャーのスキルアップのためエリア内連絡会や勉強会を実施します。目標 6回。 	<p>○ケアマネジャーからの相談については 186 件(4月～12月実績)を実施しました。地域特性として困難事例(複合的課題を持つ世帯)が多く、同行訪問やカンファレンスも実施しました。</p> <p>○地域のインフォーマルサービスについては、随時提供できるようファイルにまとめ整理しました。また内容の更新も適時実施しました。</p> <p>○「かみしらねアカデミー」として上白根・今宿西と3包括合同で居宅介護支援事業所連絡会と研修を実施しました。内容は「地域ケア会議報告」「生活習慣病」「障がい者支援機関との連携」「老年期の精神障害について」「ケアマネジメント」「相談援助技術・場面面接(2月予定)」です。内科医、精神科医の講義を2回実施し医療連携の一助としました。</p> <p>○新任ケアマネジャー研修は区内包括合同で9月・2月に実施し、座学と事業所見学、個別研修を組合せて行いました。</p> <p>○旭区ケアマネット運営委員のオブザーバーとして、運営委員会に参加したり、研修開催時の運営の支援を行いました(6回)。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築 ④地域ケア会議</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p>	
<p>前年度評価〔〇〕</p> <p>○居宅介護支援事業所・介護サービス事業所の連絡会を実施し、個別の課題や地域の課題について意見交換や検討を行う機会を設けます。目標2回</p> <p>○ケアマネジャー・民生委員との懇談会や勉強会を実施し、顔の見える関係作りと連携の強化を行います。</p> <p>○障がい者への支援も多いという地域特性に合わせ、地域課題解決に役立つよう障がい支援機関とのネットワーク作りに努めます。また生活支援課・生活困窮者自立支援事業担当者とも協力し、家計管理等の課題解決を図れるよう連携を致します。</p> <p>○関係者に個別地域ケア会議から出席して貰うことで、支援関係機関相互のより強力な関係作りが</p>	<p>○「高齢者+障がい者」(高齢者自身も障がい者)世帯が多い地域特性を鑑み、昨年度に引き続き「障がい者支援機関とのネットワーク形成」をテーマに地域ケア会議を実施。また精神保健福祉的課題が多いこと、「各世帯の課題が複合しやすく解決に長時間を要する」という地域特性からの地域課題について検討しました。</p> <p>○生活困窮者自立支援事業担当者との協力により、地域課題の一つである「家計管理が困難な世帯」についても連携を図りました。上記の障がい者支援機関との連携も「家族システムを考慮しながら世帯全体を支援できる」チームアプローチが実施できるよう、カンファレンスや個別地域ケア会議を重ねました。</p> <p>○地域ケア会議において排除に繋がりがかねない「被害妄想による近隣トラブル」、解決に長期間を要する「社会的ひきこもり」事例については複数把握さ</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	

	<p>できるように致します。</p> <p>○昨年度実施した包括レベル地域ケア会議について報告する機会を設け、地域包括ケアシステムについての普及啓発を行います。</p>	<p>れており、今後も継続して支援策の検討(制度の裏付けがあるもの)が必要であることが認識できました。</p> <p>○5月に「介護サービス事業者連絡会」にて例年通り前年度に実施した地域ケア会議について、介護サービス事業者向けの報告会を実施しました。地域包括ケアシステムを担う事業者の方々に、地域課題について検討して頂く機会としました。</p> <p>来年度はさらに支援者からの意見や課題が活発に提出されるよう、内容を工夫する予定です。</p>		
	<p>(5) 介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)</p> <p>前年度評価〔○〕</p> <p>○要支援者の主体性・意欲を引き出し、目標志向型の介護予防ケアマネジメントを行います。</p> <p>○委託を行う場合はケアマネジャーと連携し、適切なケアマネジメントが出来るよう契約時等同行訪問面談や担当者会議での助言や、ケアマネジャーに地域資源の情報を提供するなど支援に取り組んでいきます。</p> <p>○地域包括支援センターエリア内やブロック毎での介護予防支援業務に関する連絡会・勉強会・情報共有を主任ケアマネジャーと連携して行います。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防に役立つ情報収集、発信に努めます。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○要支援者の主体性・意欲を引き出し、目標志向型の介護予防ケアマネジメントを行いました。</p> <p>○委託を行う場合はケアマネジャーと連携し、適切なケアマネジメントが出来るよう契約時等同行訪問面談や担当者会議の参加・助言や、ケアマネジャーに地域資源の情報を提供するなど支援に取り組みました。</p> <p>○地域包括支援センターエリア内やブロック毎での介護予防支援業務に関する連絡会・勉強会・情報共有を主任ケアマネジャーと連携して行いました。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター及び生活支援コーディネーターと連携し介護予防に役立つ情報収集に努めており、現在地域内で新しいサロン開設に向けて準備している段階です。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
	<p>(6) 一般介護予防事業</p> <p>前年度評価〔○〕</p> <p>○高齢者の状態を把握し、介護予防のきっかけになる情報提供や活動への参加を促すとともに、地域の中で介護予防の取組が広がるようにしていきます。</p> <p>○介護予防事業や自主事業で育成したグループの自主活動を促し、地域での活動を紹介したりするなど継続した取組を進めます。</p> <p>○介護予防の情報の提供、新規参加者を紹介するなどして自主化したグループを継続して支援します。</p> <p>○介護予防を行うグループの交流会を行い、エリア内の介護予防活動の拡充に取り組みます。また活動の中での課題などを気軽に相談できるように、お互いに顔の見える関係を構築します。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防に役立つ情報収集、発信に努めます。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○高齢者の状態を把握し、介護予防のきっかけになる情報提供や活動への参加を促すとともに、地域の中で介護予防の取組が広がるように努めました。</p> <p>有酸素運動・筋トレ・脳トレを組み合わせた「だんだんダンス」を開催(9月より、15回実施)しました。</p> <p>○介護予防事業や自主事業で育成したグループの自主活動を促し、地域での活動を紹介したりするなど継続した取組を進めました。</p> <p>○介護予防の情報の提供、新規参加者を紹介するなどして自主化したグループを継続して支援しました。</p> <p>○介護予防を行うグループの交流会を行い、エリア内の介護予防活動の拡充に取り組みました。また活動の中での課題などを気軽に相談できるように、お互いに顔の見える関係を構築するよう努めました。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター及び生活支援コーディネーターと連携し介護予防に役立つ情報収集・発信に努めており、現在地域内で新しいサロン開設に向けて準備している段階です。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>その他考慮すべき事項</p> <p>○市営ひかりが丘住宅には毎年約100世帯の新規入居と約80世帯の退去がありますが、入居時から要支援・要介護の高齢者、精神障がい者、アルコール等依存症、視覚・聴覚障がい、日本語での会話が難しい外国の方、他者とのコミュニケーションが難しい方、親族不在、あるいは逆に支援が必要な親族との同居など、何かしら支援の必要な状況の方が入居されています。精神系、障害系の医療機関が少ないため地域包括支援センターに対応が集中していますが、UR西ひかりが丘団地でも同様の事態が表面化しつつあります。</p> <p>○相談者本人、家族の理解力や認知力・行動力の不足は住み慣れた地域であっても日常生活を維持するためには機能不全を起しており、個々に細かい支援の必要性が見られます。行政・社会福祉協議会・福祉事業者・医療者等との連携協力体制の強化が望まれます。今年度対応したいずれのケースも区役所生活支援課、障害担当、高齢担当との強い連携・バックアップが頼みの綱となっていますが、対象者が入所か死去するまで続く支援は現在ケアマネジャーや地域包括支援センター職員の多くの時間をこれに充てることでなんとかやり過ごしている状況です。</p> <p>○地域の高齢化に伴い、主な自治会である「ひかりが丘団地自治会」と民生・児童委員に現在以上の助力を望めません。民生・児童委員に関しては現在7名となり、どなたも自治会役員、地区社協役員を兼務し、地域の支援者も高齢化が進行しています。</p> <p>○DV、虐待をはじめ、これまで対応した複雑な困難事例の中で心理的に高度な対応が必要なケース等について区と必要に応じ対応を協議しました。担当者会議等の開催により役割分担をしながら協働して対応を行いました。</p> <p>○横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業においては主に地域包括支援センターやひかりが丘団地自治会と協働し対応を継続しています。</p> <p>○今年度よりひかりが丘住宅住戸改善事業が始まりましたが1棟のみの改修に留まりました。改修による転居に伴い在宅生活が困難となるケースが多く想定されますので、担当ケアマネジャーを中心に必要な支援及び調整に努めたいと考えております。</p>				
<p><区役所からの総評></p> <p>(全事業共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市基準を満たしています。 ・日頃から地域住民の相談に丁寧に対応し、行政や関連機関と連携しながら、ケアプラザとして地域に対しきめ細かい支援を行っています。 				

(地域活動交流事業)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・今年度、地域住民のニーズも踏まえ、「社交ダンス」や「健康体操」など多くの自主企画事業を新たに開催したことで、ケアプラザ利用者が大幅に増加し、交流の輪が広がっています。また、小中高生のケアプラザ利用を増やしたいというねらいのもと、多世代交流を意識して事業を組み立てたり、小学生への福祉体験授業を実施したりするなど、小中高生にとってケアプラザが身近に感じられるよう、工夫しながら取り組んでいます。
- ・今後、地域の中で集めた情報をもとに地域課題を抽出し、具体的な課題解決につながるような取り組みが進められることを期待しています。

(生活支援体制整備事業)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・地域に積極的に出向き地域活動を支援するとともに、ボランティアの養成等、地域を支える担い手の育成に取り組みました。
- ・次年度も引き続き、5職種が連携を図りながら地域支援を進めていただくようお願いします。
- ・今後、旭区社会福祉協議会、旭区との連携を強化し、見守りや生活支援サービスの充実に向けた具体的な取組を進めていただくようお願いします。

(地域包括支援センター運営事業)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・障害関係の機関等との連携強化を図り積極的にネットワーク作りができています。また、民生委員との連絡会を毎月開催しており、地域ケア会議の課題設定にも繋げることができています。
- ・介護予防事業では新たな有酸素運動・筋トレ・脳トレを組み合わせた取り組みを積極的に行い、介護予防活動の拡充に取り組まれています。
- ・今後も地域の課題に即した対応ができるようネットワークの構築を図り、チームでアプローチできるような取り組みが進められることを期待しています。

<評価 (S/A/Bの3段階)>

A